天明太平記

十

へ13
3315
10

近世小説 嶋田一郎實録 二十五 全

開明小説 三田五人切實記 十五冊 全

相州奇談 真土村實録 全

近代 紀文實録 十二冊 全

堀田先生編 造化色論 全

春色先生編 世界大機 全

松村春輔著 三府膝栗毛 三編 大尾 全

於百實傳 怪妖物語 百十冊 大尾

清新のくさぐさ 慶女香

此ごろ菜はかぶれの つゆ出しそを白し 紅目をこ。まらにまるる 実こ神のめ。ふきび。をやらす。極りめく疎。きこの蕨少しも。あとなくあをとうそ。るくくなる 実合なり。茂こは用ひ極をこれかり まれ美人く成りたまへべし

誠光堂述

東京 書林

京橋弥左エ門町 文永堂 大嶋屋傳左エ門

牛込細工町 誠光堂 池田屋利三郎

同 盛弘堂 池田屋清吉

天保三年花巻十

貝塚

一 山桜十度死葬送之事

付 猿蓑の事

一 菅原伝授の事

付 切腹の事

一 政言葬送墓所群集之事

付 刺馬十度加増之事

門へ13
3315
巻 10

一 政言奥方刑罰の事
并世上噂の事

牛込 清

天明三年十月廿十
山城守殿死去葬送之事
并 復讐之事
松平右京亮殿ハ山城守殿と
世間ニ迄ハ有之ニ付
侵者の居り居り
及入替り之替り医療
とゝ迄も術の和大苦痛
中之痛

出り羅〻三千五六時が男徑と昔〻ある道
多長ふ俗て諸寺諸山行会行幸殿し
く寂中の面〻跡集り稚〻拾〻の
芳行きあ〻ハ護摩又ハ裸参り拝
世あ〻ふる所あ〻行高仕り玉ふ孫
もあ〻三千七殿世一郡と〻て国衆皆
流ふ黄泉の藏所ふ流き[illegible]り立ふ
反も力乃ぞ寂中来ぐあるを逆罪所ふ

拾天世尖ハ宮世拾〻ふ白〻て唯間道
器ある斗あり玉上見井の方も仏殿
玉外ハ潮〻流ふ所ハ潮りふハ毒年世
ある人ふ男ある玉人ある人ハ行来ふ元
あ〻と寂中一流ふ易き白ハ奇り乃り
行ふ玉ぐき玉ふ四月五日所ふ入
て且形寺ある弘世拾柿寺〻葬送玉ふる
元千本食殿ふ行ふ〻ある玉ある人ハ俗俗

の集るを俗蟻の集るが如く椎部也
元亨釋書に此の重選りて為る所の法華
堂あるハ京の中河原に三十間ばかり流
ぶりあるを食ハ人あるを食ふ人ハ
を食ふへ礫を打ふの如く石砂を
を搗て打るを所なるを所なるを
を鄉を俗ふるるの富を形やを思ふ
あり搗打し中ふ一あ人ハ廿石ふ奇怪
稱せ〳〵者を打て迎し馬指中〳〵頭ふ
起ぶ〳〵〳〵嘆ふきるを所なるを長を
防ぎ〳〵又十町も行〳〵和又保を打
ふ羅安行和ふ十倍〳〵て廿度ハ怪
人を七八人ふ乃ふ有京中〳〵ふあるバ
何方ふ走来るを浦文かるを形柄
あるバ浦〳〵吟味し逐電〳〵長を飛あく穏
俗ふ葬送を嘗〳〵ける文〳〵又二年百の

法中道ハ墓ハ面垣石碑等金ノ石平
あるて諸員方ハ後ハ了寧ハ家所ハ
ハ石檀石龍多ハ ある所大名ハ納
方石十方ハ石龍多ハ諸所ハ納
杜丹屋九鑑四月義ハ南ノ級生対
何氏ハ綱大名ハ侍者生
欣書奥生納ハ侍ハ諸ハ大名も
生多ハ諸ハ諸ハ諸ハ庭

編ハ欣武生の橋ハ家生ハ多生ハ
多ハ百ハ夜ハ時ハ見
家ハ何者ハ和ハ数十人常刀ハ入
ハ何の金新もあく右ハ石碑生ハ
碑ハ礼所ハ石ハ寺中の僧侶ハ
て生ハ猿蓮何者ハ多ハ梅生
枯ハ向ハ生彼者ハ口ハ中
我ハ食七廿石碑生ハ砂ハ

所の墓所をめぐりも拝み奉り
奥の院を過ぎて四宵あがりに三向に一
の御堂に三ツ鳥居の大山に
出る
山吹の咲ぶ傍に
さて逸入り彼曲者共の
石碑を拝き何
御堂逸隠れ中の者共御ゝの刹
五の御堂伯寺を初め
夜葬送の夜ゝ云又加ゝる猿藉ゝ
何者の仕業やらん
背の御堂ゝ
ゝ逸来り
右し次第番細中述べ
大の山驚ゝ
八幡宮を南屋敷ゝ
御ゝ今又金

寺社奉行へ出ス　廿余年ニ成ル又ハ新田の如く
水使之儀ニ付ハ　農商世話の用ニ付ハ
前ハ稲作ハ元年ハ荒年ハ
の日柄ハ有きるハハハ時多き中分ら
之ハ之ハ合の作年ニ成ル
若ハ度ハ作法の流ル
共　切作の事
寄行水三月廿日許定所ニ相年貢
高百俵ハ度　年貢ハ度　去辰年
馬ハ度　久松新田　安房　安房　映一郎
新田　新田　新田　新田　新田
幽閑　平野　山村信濃　和泉　信濃
ハハ　人　目付　高　高の　古場　人　人　若　若
作地　若　ハ　同心　同心　国許　宮部
白砂　若　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
支配下　作地　若　殿中　ハ　禅

[illegible]
肉ハ天下の御厳切なり白砂の[illegible]
[illegible]古例[illegible]中[illegible]
度初め一度し面[illegible]おなじ御生涯て
評定所し極例[illegible]
度中[illegible]ハ[illegible]中あらう厳
中[illegible]
[illegible]天下の御国

[illegible]
[illegible]き一し書家一奏[illegible]
[illegible]懐中
[illegible]人[illegible]
四面[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四郎殿の家臣福富平左衛門尉秋貞
八十ばかり厳中を掃き中しなびあき
山城守を討ち又手ぐすねの罷人四十ばかり
好ばかりの御使を仰付られ天
下野一御限古屋ばかりくわと中を見ればば
一度に面々諸の武士ありと笑し神を後
りはるとあり時の幡川右衛門中を見ると
去所古屋に成に成に前くわ倒の

長尾弟四郎殿の御勇ましき御家柳
信長公に揚り屋へ来られ給方の
御ふるまいの又八度の盃を
又弟四郎殿の御面白御ふるば
山村信濃守中を見ると右衛門尉
中に御ふるまいの一向者じ
あき御ありし私新放一向四郎中さま
ばかりの左衛門尉殿用法七

[illegible]あり女房[illegible]
人の[illegible]我[illegible]
甲斐[illegible]国[illegible]智の[illegible]
除り[illegible]又[illegible]
如[illegible]者[illegible]
諸人皆[illegible]者[illegible]
四月[illegible]揚り[illegible]
[illegible]検使[illegible]

伊[illegible]目附[illegible]小人目附[illegible]
諸人[illegible]
の[illegible]法[illegible]
或[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

其科にハ死罪にも仰付らるべき
者なれども御慈悲を以切腹仰付らるゝ事
依て検使として大目付御目付衆并に
さまで検使が是非に寺社奉行衆へ手を付候
検使ハ昔方なりしに存寄り候得ば懸着
儀ありしの罪人にても候らば其咎ハ仕置
仰付らるべく候 存儀して御慈悲を以
武法し切腹仰付らるゝ事一夏加を恐れ難き

仕合に存寄り候と立合の諸役人中へ向
ひ只今寺社奉行衆へ仰渡され候ハ此場
其科に従ひ存寄り候事ありしへ以て宰領を
是に及ぶ迄もなく時に御目付の三方に
大刀ありて持あて侍の衆の前
から是を請て押戴き袂に入れの
所々に直し衣服をぬぎ押しろげ水の如く
ある短刀を抜放し逆手に持ちなも嫌し

家如常之ものゝ分諸の者ゝ向ひ手を合ふ
四方中夏之女子形ゝ及び男ゝ男ゝ
座云の家之何事侍べゝ進一首
の辞世あり

消て行く雪ゝ哉ゝ何ゝ之ゝ
天理ゝ明ゝ方ゝ焼しさ
と二三辺吟じ居ゝ今ハ白ゝ雪ゝ
あゝゝと侍ゝ白き清氣成形の有り

の猶猶寛廷右の鐘ゝ正ゝ川ゝ寄ゝ
と知りて寄ゝ山ゝ合セ南無阿弥陀佛と一声
ゝ分諸道ゝ入ぞゝ侍ゝ邪ゝ形ゝ方
元清ゝ之ゝ山ゝ首ゝ揚ゝ上る誠ゝ
宮形の祖社健常あり死骸ゝ白き
蒲ゝ面ゝ白ゝ方ゝ元橋役ゝ橋役ゝ御相
書元ゝ形ゝ侍て髑ゝ石ゝ幣ゝ刀より和
腹ゝ女ゝ座ゝ合ゝ橋役の元中ゝ初

高風神を繰り遠き希代の勇士なり
と惜まぬ者なきなり
政言葬送墓所群集の事
英勝寺殿古加増し給ふ
高福山政言死骸諸丸葬送営こなる
芝増上寺東門諸寺中神田山徳本
寺へ遺骸を納る法名を
元良院殿釋誠眞大居士

天明四甲辰四月三日　俗名佐野善左衛門政言

死て葬送し聖日より寺に所人出る
近在を伝へ初めを懐き尼牙牙集
山墓所へ参詣し者賑敷蟻し集る如
く中々懐り極杖参り香花
手向る者も同じ三日近在男女
あく打て夜の明集なり

右し懸の文字ハ伊勢大明神なり
如ハ世古〳〵大明神なる上ハ等
家五五の所百性なる故なり
故系譜こ者山若止ゑ墓所国の
諸〳〵系譜ゑ文雅〳〵ゑ聖
同ゑり思ゆ系譜ゑ所ふ者
ゑゑ故若一巻ゑ伊人
中〳〵所ゑ度所ゑ思上持ゑ

人ゑ〳〵弥長如支ゑり 契状手野馬
ゑ度ゑ月ゑ四月ゑ彩御書伊世若
那ゑ若組止ゑ度年末ゑ上国長神如
の通り如迷河加婚或百石ゑ〳〵ゑ上
御ゑ七年御ゑ及かゑ名巻〳〵ゑ働造
ありと若人商〳〵ゑ上ゑ伊吉三浦大
助長〳〵し城ゑ御ゑて馬ふかき如
如陣〳〵若者ゑ勇ゑ上作〳〵ゑ振

是迄ハ万じくき思ひ出なり

政言奥方剃髪の事

夫世上噂の事

扨も佐野家の葬送も相済けれバ二番町
御厩谷片町屋敷を上りさま家作ハ古き上
ミ相対致事も家財ハ一門方へ下されけり
奥方も親類中へ引取れけるが所々に三日
夫二日奥方夫の死体ひて心あらしも

親身の一之事のかたしとて中あつかひしきりなれバ女房
其方が身ハ是より自ら娘なれも
離縁致されし内縁の訳も
之義中にも是ある事も是あるとても
永き月日もなく蓮の内外を飾らひ抱
迎ひ取るべしと余義なく申されけれバ親
方にも不思義なり世にあるまじき先抱
且て社あるまじき儀は同夫四目の更ども

を中心として皆〻奥を去り恨をさめ〻恨をのこす
が奥方のハ引ぎ者方あ〻あ社武家の世
離縁ハ今〻嫁の自うめし法羅の至
らぬ拙かるの中ゆ文ゆ知るべ
〻て中の中を怨の恨し給〻て〻の新
なるさ三年中参〻乃ちまべ〻と元後の覚
の元形〻洞の恨びのの引る文り月四月
四切後の事を中ゆ文加まて中無傷の陽り

那の中自害を乃〻〻ば乃りの人と押
歩の系〻を加祖の筋ハ者の人ハ者の
今更中乃乃〻の乃〻の中自害拙
さを迫のも菩乃拙の中場りあ〻り
乃を乃を乃び中分を食して昨若を世
書月拙を迫の社乃又一ツの中教害加
ぎや菩乃拙の中羅羅加〻も伝幸
別書嫁を書月〻〻景よあ〻の門

文面読みくだし明らかなりと事を分理
を尽し洞に悟りの深き理まで奥旨に徹し
世の出来り明らかなれバ何の世にも存
命を世の中を慎こと及び浮沈あがり
佛の子孫恩自も神を締りけり奥旨
今ハ論なく世も浮世に存命で
き月日を送りなバなく八二世の丈の記
ありと帰りて是をする郷の黒

儒家もなく隣しありて並べて八形君の
明君を洞の種に朝夕の御に仕ふる忠の
義をとらも恩あり実や仲吉八とぞ知らず
識に加る貞節の婦人も流石名に有り
佐野政言の奥方と聞へ社有けり
女も此度佐野家の一誅真なく恐れ
見まぶしき様も出なしなつて加る義の
佐野家の屋を惜まぬ者ハ存りける忠ての世上

稽古流の国ハ茅代の末の末迄儒者
なる事の代のいとぎき又翻訳実の
るおきてあるべきて書石動の代
こと自分度ひとも
まつ世上一流稽古相雑流
ゑりゑり踊り支多なる数多の内
の秀逸のものをめし代弟の記を抄之
事あし

山城守度毛麻布の内外河内
稽古の外毛智の抜きて河北
事ゑり麻毛ひる内の先抜て並べ
き者中撰毛ハ方抜ハ方義
の稽古の中ひるまつ豊文庫
があしし

方形
昔ゑり度ハ進て山城守度毛切如

此の山何連湯より山切敷道〳〵
人家より志ばらく頻の法が屋
湯〳〵切〳〵さ
四沼道敷
佐野山恨の鄙ござる清水の食
を云時八世上むかし諸りあり佐野
ゲ屋を寄時八内〳〵むかしあるあ
り遍上〳〵欲食ハ権草平新入お

ふ事〳〵あ〳〵と郷もあり沖恵
む人もあ〳〵ふ所も世 城の雲晴く
親仁の罪を加へあらさん
牡丹
運命花門ふいまる〳〵貢〳〵り
これもきく〳〵山る五千俵〳〵あ
山〳〵湯の白の小池ぶ無ふ深〳〵
赤ど〳〵家あと人やりのあり

山〳〵ゆきをうちふまさるる景色
きやくもうけていき野てるぐの
郡石ハかぎりかのかぎの巻いゝ
野馬のうゝのあゝんかぎりハ
やくさゝゝのい
あやこさゝゝのませう
ヤアラうんどの吉めやすバ　上ハ混乱
下ハ世ゝゝ年〳〵ろうぶりのハ八百万人

くるゝゝむものハ二三人　龜地の親仁ハ
百年ゆ居月が前ちなうゆ年ゆてきう
ゝ山役あがりまゝゝゝ新畳きう
たちまゝゝ山役人外きゝうんの為
きうんきゝ世の中たいらの為
右の明〳〵なる仁合数多ゝ外山汗
〳〵車ゆ計るが如〳〵ゝ中ゆ世上一新
きぐ加り外ゝ行り又諭ゆ郡の鄙ゆて

日暮町二百
花屋堂

[illegible]

但所書為し

[illegible]

[illegible]

池清

天明三年記巻十三

東京牛込細工町
貸本所
池田屋清吉

凡士農工商とも夫々の職分家業を固て相用の器物を造り
今日を営む夏世界一般に然れ共世写孝の巻中に柳ら白等
の種々の書入又は形を覚えるべき木偶人或は見苦
男女の陰辱を画き禽君父子の中々聞て赤面の録
間く多く是等必竟一時の興より家作ての戯まれ
其職分[illegible]迷惑疵付るに[illegible]ハ俾てより著述抄筆者の誤り
[illegible]言語を[illegible]其通ちを名免巻中の戯画楽書等一切
池田屋当代是を欲て無人夏浄園て素代りて諸君子所ふるの爾

廣石山人識

和漢
貸本所
東京牛込細工町
誠光堂
池田屋清吉